



# 名寄市立大学の窓から

## 知への誘い

vol.65



### 「子どもの育ちと大人の役割」

保健福祉学部 社会保育学科

准教授

傳馬

淳一郎

#### 子どもで「ある」・大人に「なる」

「子ども」とは同時に二つ意味を持つ存在だといわれることがあります。

一つ目は「子どもである」存在です。

「あなたは子どもなんだから、あなたのままでいいんだよ」と受け止める、現状肯定的な捉え方です。

とはいっても、いつまでも子どもが子どものままでいても困ります。

そこで二つ目は、いずれ「大人になる」存在といえます。

ここでいう「なる」には、「どのように育って欲しい」といった先に生きてきた私たち大人の「思い」が込められています。

この「思い」は、次の社会を担う子どもたちに向けられた大切な願いともいえるでしょう。

しかし、子どもで「ある」ことを受け止め、「あなたは大切な存在なんだよ」というメッセージをしっかりと

#### 大人の願い

私が保育所保育士として勤務していた頃の話です。

小学校への進学を控えた年長児クラスの子どもたちは弁当箱（主食となる米飯を入れて登園）を巾着袋ではなく、大きなナプキンに包んで持参していました。

それは就学に向けて「全員がちょう結びをできるようになり、片づけの習慣が身につくように」とのねらいをもった保育実践の一つでした。

そのため、給食の片づけ時間になれば、保育者は一人ひとりの子どもたちの力パンを確認して、丁寧に結んでいない子どもがいれば、呼び戻して「トンネルくぐって」と声をかけながら一緒にちょう結びを行っていました。

そのかいあって卒園時に

は、年長児全員が蝶結びで弁当箱を包み、カバンに片づけることが出来るようになっていました。

数年後、縁あって同じ地域の児童館で勤務するようになりまして。

その児童館には放課後の小学生の居場所となる「学童保育」が併設され、多くの保育所出身の子どもたちが通っていました。

私が児童館に異動して初めての昼食時、信じられない光景を目の当たりにするのでした。

それは保育所であれだけ丁寧に指導を重ね、全員が弁当をちょう結びで片づけるようになり、「よくやった」と気持ちよく小学校へ送り出していった子どもたちが、誰一人として綺麗に包んで片づけていなかったのです。

しかし、当然のことなのかもしれません。

保育所では保育者に「言われているからやっていた」だけなのでしょう。

#### 私たちができること

小学生にもなれば自分で判断して行動する機会も増え、就学前よりも大人からの言葉かけは少なくなるといえます。

そのような中で、弁当を手間のかかるちょう結びで片づけようとしなれないのは、自然な行動といえるかもしれません。

皆さんは、これからの社会を担う子どもたちにどんな大人になって欲しいと願うでしょうか。

そのために私たちが、できることは何でしょうか。大人は子どもに「くがでできる」といった目に見える成果を求めがちです。

一つできれば二つできることを、二つできれば三つできることを求めてしまいません。

しかし、目に見える育ちだけが、発達の全てではありません。

「最近の子どもたちは…」と嘆く前に、まずは今ある子どもたちをしっかりと受け止め、温かなまなざしを送ることから始めてみませんか。

そんな大人たちが見守る地域の中でこそ、子どもたちにはイキイキと輝いてくるのかもしれません。

#### 大学図書館へようこそ！

昨年の5月から新図書館の一般利用を開始し、ちょうど1年経過しました。この間の利用者は旧図書館時代よりも劇的に増加し、新たに貸し出しカードを申請された方も200人を超えました。特に以前は休館だった土曜日も、昨年からは午後9時まで開館していることもあり、一般のご来館者も多くなりました。どうぞお気軽に大学図書館をご利用ください。

※土曜日は管理の都合上、大学1号館東側の入口からお入りください。

図書館までの経路を矢印で表示しています。

※5月は国民の祝日と日曜日が休館です。



#### 大学図書館にはこんな本があります

～「知」への誘い～からもう1歩～

『知る・見守る・ときどき助ける モンテッソーリ流

「自分でできる子」の育て方』

神成美輝/著 日本実業出版社

『子どもを見守るまなざし12か月』

菅澤順子/著 東京シューレ出版

『子育てに必要なことはすべてアニメのパパに教わった』

柳沢有紀夫/著 中経出版

『保育の心理学ー地域・社会のなかで育つ子どもたちー』

中島常安/編著 同文書院



#### ◆問い合わせ

名寄市立大学図書館 ☎01654⑧7671(直通)